

大阪北部地震の現地確認

新聞報道に現れた幾つかの場所を実際に

歩いてみました 実施日：2018年7月13日





殆ど無被害の大山崎

山崎合戦で秀吉の陣所となった宝積寺
地震による墓石の転倒は皆無であった。



摂津/山城の国界碑

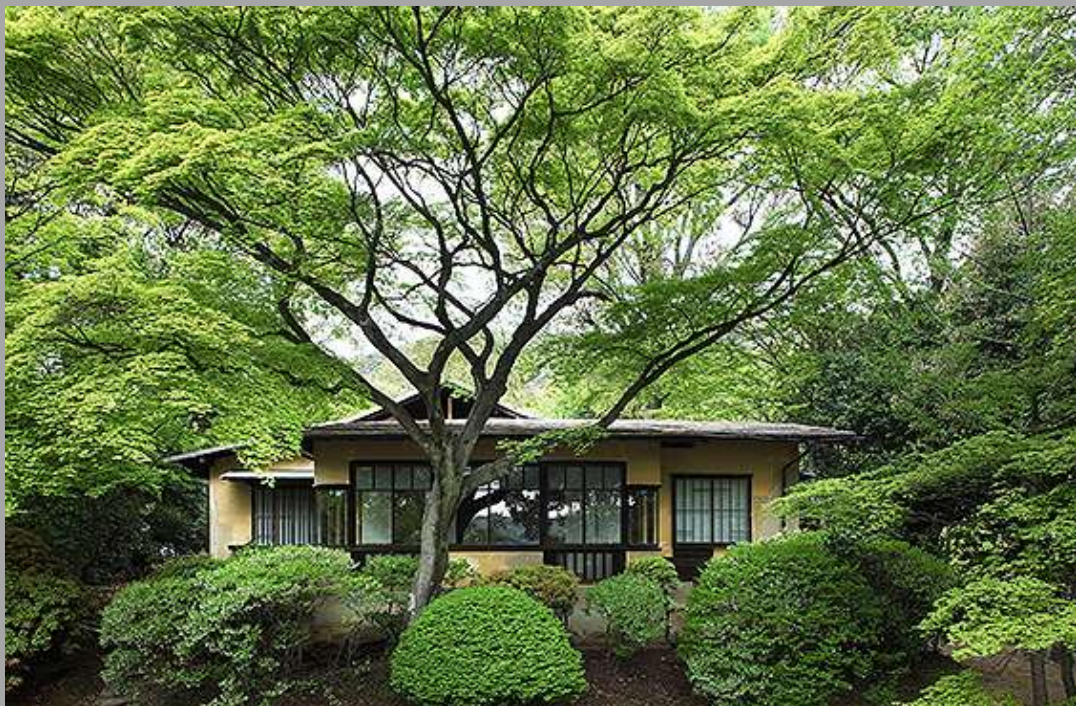


拝観謝絶の妙喜庵 国宝(待庵)の壁
には地震で亀裂が入ったらしい。



アサヒビール大山崎山荘美術館と安藤忠雄の『地中の宝石箱』





震災前の聴竹居：写真は聴竹居のホームページから引用させて頂いた

聴竹居



ガラス2枚が破損したが建付けに狂いは生じなかった

聴竹居の地震被害について

6月18日に発生した大阪北部地震で、戦前のモダン住宅として知られる京都府大山崎町の聴竹居でも母屋・茶室（いずれも重要文化財）の窓ガラスや土壁に被害があった。聴竹居では外壁がはがれ落ちたほか、建築当時から使われている窓ガラスが割れるなどの被害が生じた。茶室の壁もはがれ、地下倉庫の内部があらわになった。維持管理や案内をする一般社団法人「聴竹居倶楽部」のメンバーらが駆けつけ、掃除や予約キャンセルの対応に追われた。事務局長の田邊均さん（64）は「今年は来場者1万5千人を見込んでいたのに残念だ。ここは建築界の宝。こんなことになって身が裂かれる思い」と話した。今月の聴竹居の見学は全て中止、来月以降は未定。町内の民家でも屋根瓦が落ちたり壁にひびが入る被害があった。[京都新聞06月19日]

大阪北部地震の被害を受ける前の聴竹居の本屋（上）と地震で剥がれ落ちた本屋の土壁（下）＝京都新聞



現地を訪ねた時には幸運にも聴竹居倶楽部事務局長の田邊均氏にお会いでき、内部の被害状況も見せて戴いた。地震動は殆ど上下動のみで、初めに上、次に下。揺れは一発のみと単純明快であった。重要文化財であるため復元するのが大変で、特に屋根瓦には気を遣う由、国宝の妙喜庵茶室（待庵）も同様であるらしい。



障子紙の破れや壁の亀裂は短周期地震動の特徴である

